

「日本基督同胞教会史」研究会
「日本基督同胞教会年会記録」を読む 3
＜年會記録第21回より24回＞

鈴木 秀信

はじめに

「日本基督同胞教会年會記録」報告は第21回(大正10年 1921年)より第24回(大正13年 1924年)の記録(22回報告は欠落)によるものである。私に課せられた3カ年の経過報告にあたっては、当該時代の背景、および機関紙「同胞」の報道記録等を併せ読み込んで検証していかねばならないのであろうが、「年會記録」としての書式に従って、議事および決議事項の経過を眺める事とした。従って議論の経過について不詳な点が多く各年会の重要と思われる事項についての検討が困難であり、直接記録をして語らしめることとした。特に重要な視点として、総理、幹事による各年度に対する評価および展望が語られている事である。その全文を読み込むことによって教団形成に対する概要を読み取ることが可能であると思われる。また、年会開催に先立ち「日本基督同胞教会教役者會」が開かれ、その時々注目すべき課題の下に教職相集って研鑽と交わりを持った事は記憶せられてよいのではあるまいか。

なお、原文の趣旨、文意尊重のため変換可能な範囲で原文のまま引用した。

第二十一回日本基督同胞教会年會記録及報告

□年會に先立つ「日本基督同胞教会教役者會」開催。

日時；大正10年3月10日(木)午後1時より午後10時

場所；江州石山三日月楼。参加者；20余名

日本基督同胞教会第二十一回年會に先立ち、江州石山三日月楼に於て教役者會を開く。吾人の記憶する處によれば、初めて此地に吾教會の教役者會を開きたるは既に十三年の昔なりき。當時を追想すれば、吾等同労の士にして健康を以て尤も誇りしは石黒、関二牧師なり。頑健なりしは大内牧師なり。而して三君共に今は故人となれり。木倉牧師も亦逝き、牧野、藤城、水野、田口、水口の諸君も教會を離れ去りたり。吾等は旧態依然山紫水明の地に會して故人となり、亦別れ行

きし人々を追想して無限の感慨に満たさるるものあるを覺ゆ。當時に比すれば吾教會亦長足の進歩をなしたり。今日の教會の基礎を造りし者は彼等なり。神と人々とに奉仕せし勤勞と犠牲とが今日の基礎を造りしを考ふれば、吾人は切に彼等が勞を謝せずんばならず。然して亦彼等が精神を更に養ひ育て、今後吾教會をして將來の大成を期せざる可らざるを覺ゆ。

三月十日（木）午後會する者二十餘名、皆健康にて老いたるも若きも元氣に見受けられたるは愉快なりき。午後一時修養會開會、定森牧師司會す。一同過去一カ年間体験せる信仰及牧會上の懇談をなす。何分制限せられたる時間にて充分に意を盡し能はざりしは遺憾なれども各自互に益する處尠からざりしを覺ゆ。午後三時半休會。

午後七時懇談會を開く。矢部牧師司會。現代に對する教化事業と題して語る。新山泰治君發題者として傳道、教育社會問題に對する所信を語り、引き続き各自の五分間演説に移り、其所信を發表したるが、要するに教育方面に於ては日曜學校の發展策及改善、社會問題に對しては鋭意研究して教會として着手し得べきものに對しては其設備をなす事、傳道的方面に對しては從來の捉われたる傳道を排して吾人の所信を充分に發揮し得る方法を執る事、特に吾人は此機會に於て不斷の努力を以て神國建設の大業を成就する事に大体の意見の一致を見出すを得たり。特に吾教會の如き少壯者の多き団体としては局面を打破し、新方面の開拓に向かつて進まざる可かざるを覺ゆ。午後十時閉會。

三月十一日（金）午前七時樓上に於て早天祈禱會を開く。横田牧師司會。吉田牧師奨励、社會改造に向ひ大に努力す可き使命を有する吾人等は進んで此問題の解決に当らざる可らず。年會に列する吾等は此解決に對して百尺竿頭一步を進めよと、サビエーの言を引きて熱心に勧めらる。引続き多数の祈りありて一同主の祈りをなし、年會中天の御指導を願ひ求めて閉會。直ちに一同打連れて京都に向ふ。

□第21回年會記録

日 時；大正10年3月11日（金）午前10時30分ヨリ3月14日

場 所；京都基督同胞教會

出席者；年會員及代員35名中27名出席

組織會；議長 シャイペリー總理、副議長 岡崎義孝、書記 笠原謙三、書記補助 定森治郎一

日 程；1日目 開會式、組織會、事務會（報告及議事）、歡迎會

2日目 祈禱會、事務會（報告及議事）、信徒會、

3日目 聯合礼拝並びに聖餐式、日曜学校教師懇談會、讚美礼拝

4日目 祈禱會、事務會（報告及議事）、閉會式

第1日目（3月11日）

總理 シャイベリー君報告

昨春コーサンド氏總理を辞して帰米せられたる故代って總理となれり。昨年中二回理事會を開きて年會の決議を實行することに勉めたり。事務上の問題に關しては幹事及會計と協力して処理したり。十年度の補助額に就ては理事會の決議によりて米国伝道會社に要求したるに母教會に於ては早速其要求額通りに補助することとなれり。尚神戸教會の建築費に關して要求したるがこれ又吾要求を容れて壹万壹千弗を寄附し來れり。

昨秋理事會の決議を経て野田教會の仮會堂建築を計画したるが幸ひ適當なる地を得たる故ミッションより壹千八百円年會より壹千五百円を支出したり。此金額は凡て九年度の剰余金なり。此金額の支出に就いては特に諸君の承認を望む。尚事務上の問題に對しては幹事及會計より詳細なる報告あらん。（承認）

幹事 笠原謙三君報告

理事會の決議に従いては諸種の事務を執れり。昨年の教勢は先ず平調の進歩なりき。會員數に於て九十五名を増加し自給金額に於て年額壹千貳百參拾六円の増加を見たり。集金總額に於ては九千百五十五円八十五錢に達し四ヶ年計画中の集金額九千円の目標に到達せり。總理報告の如くに神戸教會會堂建築の完成に一歩を進めたることは吾人の欲びに堪えざる處なり。静岡教會牧師齋藤敏夫君一身上の都合にて五月限り辞職せられたり。任命委員會は其後任に水向啓次郎君を依頼し松戸教會には大儀末吉君を仮牧師として依頼せり。尚教勢の發展と共に現在の大部分の教會は設備不完全にして所詮充分なる活動をなすには多くの支障あるを認めざるを得ず。且傳道費不充分にして運動上多くの遺憾の点あり。此点に關しては特に本年度予算に就いて考慮を望まざるを得ず。新機運に際し吾人は傳道上更に奮闘したきものなり。（承認）

第2日目（3月12日）

議事

○神戸教會會堂建築の件（理事會提出）

笠原君説明、昨年末神戸教會土地購入費として米国より一萬一千弗を送付し來れり。建築物に對する寄付は未だ來らず然れども予算の都合上約七千五百圓を特に建築費として送付し來るやも知れず若し然らば本年度中に於て年會は該

教會堂建築に就いて其完成を希望し極力神戸教會を援助せられん事を望むと。
(可決)

○共済會規約改正の件 (共済會幹事提出)

午前中より審議しつつある共済會規約改定案に就いて議す。引き続き数氏の改定案に對する意見ありしが矢部君の動議可決せられる。

本年度1ヶ年間は規約改正中の単に負担額のみを可決し置き其の他の点に関しては幹事及び他に委員2名を挙げて研究せしめ来年會に於いて更に具体的案を提出せしむる事に決す。

○社會事業に就いて (理事會提出)

現代教會が社會事業に着手する事は極めて必要なる事なれば年會は5名の委員を挙げて研究する事。(可決)

▲信徒會

12日午後7時半別所益次郎君司會の下に信徒會を開く。

膳所教會の高橋君は各自信徒の自覺と奉仕を高調し。静岡教會の山本君は傳道的精神の振起を促し。己が宗教的實驗を語り奨励。矢部牧師は社會事業施設の急務なるを高調し午後9時同牧師の祈禱を以て閉會。

第3日目 (3月13日)

・聯合礼拝

第4日目 (3月14日)

○ (建議案) 自給規約改正の件 (矢部喜好君提出)

教會が教師給其他教會に要する一切の経費を負担し年會に對する責任を忠実に履行するときは年會は詮議の上之を自給教會と認む。原案通り可決す。

○任命委員報告 (横田格之助君報告)

20教會 17牧師 任命された。(兼牧あり)

○日本基督同胞教會社會事業概況

・大津夜学校

大津同胞教會内に設置し、大正8年4月設立せり。事業の目的は中等補習教育にして目下英、漢、数学を教授。教師5名、在學生35名、経費185円。

・馬場基督教青年會

大津市外馬場大津駅の傍に在る約60坪の洋館にて、基督教主義の社會、教育、宗教事業を目的とする。聖書研究、日曜学校、講演會等開催。集會度数100回、経費480円。

・本所商工慰安會

東京市本所区緑町、本所基督同胞教會内に設置。商工業者の慰安及び向上を目的とす。慰安會、講演會、懇談會等各種會合を開く。集會数 18 回、出席者数約 2860 余名。総経費 680 余円。本會賛助金 500 円。一般より 180 余円の寄付在りたり。

○大正 10 年度収支予算（理事會提出）

収入 35,122 圓 33 銭（内 傳道會社補助 27,246 圓 74 銭）
 支出 35,122 圓 33 銭（内 各教會補助 25,322 圓 64 銭）
 詳細説明し数氏の質問ありしが原案通り可決したり。

・大正 9 年 統計表（大正 9 年 1 月より 12 月）報告

教會数 20 教會員総数 男子 1,003 名 女子 676 名 合計 1,679 名
 現住會員 648 名、朝拝出席者 304 名、夕拝出席者 250 名、祈禱會 156 名
 受洗者 129 名

○「第 22 回日本基督同胞教會年會記録及報告」欠落しているが、第 23 回報告書巻頭に於ける「大正十一年度日本基督同胞教會要報」より要点を抜粋して下記に記した。（下線部筆者挿入）

2 月 ○本所教會は商工慰安會の爲め東京府より助成金 50 圓を下附せらる。
 3 月 ○本所教會に於いて 9 日より 13 日迄第 22 回年會を開く。
 4 月 ○京都教會自給す。23 日獨立記念礼拝を挙行す。
 6 月 ○4 日各教會に於いてオッターバイン記念礼拝を爲す。
 10 月 ○金森通倫氏を大正 12 年度我教會に聘して大傳道挙行を決議す。
 11 月 ○金森傳道関西諸教會協議會をニッブ總理宅に開く各教會の牧師代員參集

○大正 11 年度統計表より

・教會数 20 教職 16
 ・會計報告 収入 40,252 圓 7 銭（内 傳道會社補助 38,090 圓）
 支出 同上（内 牧師給補助 11,648 圓）

第二十三回日本基督同胞教會年會記録及報告

□年會に先立つ「日本基督同胞教會教役者」開催

日 時；大正 12 年 3 月 15 日（水）午後 2 時～午後 9 時

場 所：兵庫県有馬温泉兵衛旅館

参加者：25名

第23回年會に先立ちて3月15日午後2時より摂津有馬兵衛旅館に於て日本基督同胞教會教役者會開催す。

▽講演會。午後2時より新山牧師司會の下に「日本に於る社會運動と教會の使命」と題して賀川豊彦氏講演せられ主として現下の労働問題の實際の方面より2時間余りに亘り白熱的講演在り靈氣緊張し一同多大の感動を得く。

▽懇談會。午後7時より同所に於て中村牧師司會の下に懇談會開催す。発題者安田忠吉氏は「決心者の教養と訓練」の題下に實際経験上より参考に資すべき有益なる懇談有りて一同学ぶところ尠からず。引き続いて金森氏傳道に就いて矢部牧師、本多牧師、大儀牧師の経験談あり午後9時閉會。

□第23回年會記録

日 時：大正12年3月16日～3月19日

場 所：神戸基督同胞教會

出席者：35名中29名 欠席者6名

日 程：16日 開會式、組織會、協議會（日曜學校問題）

17日 祈禱會、事務會（報告及議事）、年會親睦會、協議會（教會建設問題）

18日 礼拝・聖餐式、献堂式、贊美礼拝

19日 祈禱會、事務會、閉會式

第1日（3月16日）

組織會：議長 ニップ總理、副議長 岡崎義孝、書記 中山鹿次郎、書記補助 本多釜次郎。

△報告

○理事會報告（安田幹事）

・大正11年3月 東京本所同胞教會

傳道について ①聖別運動をなす事 ②博覽會傳道をなす事 ③フィリピン傳道の件

・夏季理事會報告 大正11年7月5日、6日 膳所教會

傳道問題 連合運動についての計画 集中傳道問題

予算案 40,546円の補助を米国に仰ぐ事

不明會員の整理についての調査方針を定む

- ・理事會開催 大正 12 年 3 月 14 日 有馬兵衛旅館
- 原宿教會 大正 15 年 4 月より自給すること
- マニラ日本人教會へ醸金 150 圓以内を寄付すること (可決)

○總理報告 ニップ總理

余は昨年度の報告をなすに当たり欣快禁じがたき多くの事柄に富める事を感謝す。

曰く金森氏運動。京都第三日曜学校の開始。原宿教會の独立自給の計画。神戸教會會堂建築。全国基督教協議會の開催及其の結果として日本基督教連盟創立委員會の開設等なり。金森氏の運動を通じて余が多年の祈りの題目たる日本に於けるリバイバルが將に起こらんとする機運に到達したるものなる事を信ず。而して此の運動に由りて与えられたる信者の内より他日日曜学校事業のため又伝道者たらん為に身を献ぐる多くの青年の起こるべきことを信ず。又日本基督教連盟は日本の基督教會に於ける刻下の急務にして近き将来に於いてこの會を通じて日本全国に渉る基督教の大運動の起こるべきを信じて疑わず・・・と最も希望に富みたる報告ありたり。(承認)

○幹事報告 安田幹事

十一年度は感謝すべき多くの事が與へられし年であった。京都に日本同胞教會初の自給教會の出来た事。神戸に新會堂が建築された事、原宿、草津、洛西の諸教會が大発展を為したる事又金森傳道に由る諸教會の活動等かぞへ来れば実に多い又傳道の成績より云ふも従来にない良結果を示した。〈中略〉かくのごとく昨年は著しく教勢の進展した一年であった。今年は尚ほ金森傳道も引き続きなされる事でありお互協力一致教勢展上飛躍を為し我等に迫りつつある大なる社會の要求に對して充分應へ得る教會と為したいものである。

第2日目 (3月17日)

○各委員會報告

傳道委員會報告 (安田忠吉君)

- ・昨年は金森傳道其他特別傳道も盛んに行はれ總理幹事の報告に見るごとく好成績を挙げ得た。

○議事

- ・日本基督教連盟加入の件 (理事會提出)

安田幹事及び新山泰治君は従來の教會連盟と異なる点を説明し 1, 2 の

質問ありたる後本同盟に加入する事。(可決)

- ・如何にして傳道者並びに宗教事業に従事する人々を起こすべきか(安田幹事)
毎年数回時期を定め日曜学校生徒中より傳道者及宗教事業に従事する者の起こるよう奨励する事。但し其の時期は日曜学校委員に一任する事 (可決)
- ・今年度の傳道問題につきて(理事會提出)
本年度の金森運動に對し各教會が全力を傾注する事。及びその運動に要する経費として金 1,500 円を目標として募金する事。(可決)
- ・マニラ日本人教會に金 150 円を寄付すること。(矢部喜好君提出)
矢部喜好君説明の上。(可決)

第3日目 日曜礼拝・献堂式(神戸基督同胞教會)・賛美礼拝

第4日目 事務會

- ・不明會員整理方法調査委員會報告(定森次郎一君)
 1. 従来の教會員にして取調の結果尚不明のものは本年12月末日までに明確なる報告を幹事に送る。
 2. 大正13年1月以降教會員にして三か年間不明の者は除籍する。但し不明會員の住所姓名は各教會の控名簿に保存し置くものとする。

○任命委員報告(横田格之助君)

20教會 16牧師任命(兼牧あり)

ニッソ總理の祝禱を以て第23回年會を恩寵裡に閉會す。時に午後4時30分。

○大正12年度収支予算

収入 45,587 円(米国より補助 37,402 円)

支出 45,587 円(俸給 12,084 円)

第二十四回日本基督同胞教會年會記録及報告

□大正12年度日本基督同胞教會要報

[9月](関東大震災関係)

- ・日本橋教會は1日の大震災にて會堂及附属建物焼失す。
- ・本所教會は大打撃を受け會員にて火災にあいし者焼死せし者等あり。
- ・船橋教會1日より8日まで震災避難者100名を會堂に收容す。
- ・臨時関西理事會を京都教會に開き関東方面救済問題に付き協議す。
- ・京都教會は今月中市内震災救援支部を設置す。

- ・神戸教會は活動写真會を開き救援事業をなす。
- ・草津教會は町民慰安大會、震災講演會を開く。
- ・原宿教會は震災兒童慰安會及び一般の罹災者慰安音樂會を開く。

□年會に先立ち「日本基督同胞教會教役者會」開催。

日時；大正13年3月21日 午後2時

場所；船橋同胞教會 千葉県船橋町海樂園

▽講演會（會場 船橋同胞教會）

午後2時より定森牧師の司會の下に石橋智信氏の「旧約聖書の研究につきて」と題する講演在りたり。

▽懇談會（會場 海樂園）

午後7時より吉田牧師司會の下に懇談會を開く。発題者ショルティー氏「教役者の修養」と題し其所信と主張とを披歴せられたる後矢部牧師はじめ数氏の有益なる懇談ありて午後9時40分閉會。

□第24回年會記録

日時；大正13年3月22日～3月25日

場所；大久保基督同胞教會

日程；1日目 年會開會式、組織會、事務會、歡迎懇談會

2日目 聯合礼拝、聖餐式、協議會、傳道說教會、

3日目 祈禱會、事務會、講演會、

4日目 祈禱會、事務會、任命、閉會式

第1日（22日土曜日）

・開會礼拝後、組織會 出席議員；30名 欠席議員；8名

議長 ニップ總理、副議長 岡崎義孝 書記 中山鹿次郎

○總理報告 ニップ總理

大正12年は我教會に取りて大なる恵の歳なりしと共に又大なる試練と悲しみの歳なりき。彼の9月1日に於ける莫大の生命と財産とを瞬時に奪い去りたる大慘事に際しては余は独り教會の兄弟達のみならず全日本国民と共に泣きぬ。

然も此の裏にありて我が教會において総ての牧師の生命の恙（つつが）なきを得たるは余の感謝に堪えざるところなり。＜中略＞固より日本未曾有の大悲惨事たりしも天來の大打撃は多数国民の目を醒まして物質文明の眞に依

頼するに足らざることを自覚せしめ自然力を以て破壊し能わざる永遠の生命を與ふる宗教の必要なるを痛感せしむるに至らしめたり。而して吾人は神が斯かる機会をも善用し給いて国民に大なる恵みを施し給ふを見て聖旨の深奥なる一端を窺い奉る事を得たり。今回の年會においては最も重要な問題として失われたる教會の復興案に付き各自考慮して最善を盡さざるべからず。米国に於ける兄弟たちもこの問題につきて深き同情を有し現にそれが為め募金中なりと言えり。

大正12年中凡ての教會に於いて金森氏傳道の挙行されし事は久しく紀念すべき事なり。例えその結果は予想せし程ならざりしやも知るべからずと雖もこの運動によりて各地方教會の信者は結束して起ち、時間と金銭と労力とを捧げて活動したるため只に新會員の増加したるのみならず信者各自の信仰を深めたる事は誠に喜ぶべき事なり。

余は此種の運動の時々挙行せられん事を望む。而して此の運動に際して深く感ぜし事は個人傳道と教會に於ける継続的傳道及継続的宗教教育とをよりよく計画せざるべからざる事なり。そは教會の成長は斯かる不斷の努力によりてのみ完成するものなるが故なり。

昨年11月13日東京に於て日本基督教連盟成立し余は安田幹事と共にミッション及年會を代表して其創立發會式に列したがる、文学、傳道、教育、社會、國際親善の五部門に分ちて計画をなし既に其運動を開始したるは大に感謝すべき事なり。既に承知せらるる如く目下米国に於ける我教會は内外の教育傳道のためにする募金につきて困難しつつありこれが為め傳道會社は日本より申し込みたる要求を充たす事能はざる有様にて同社幹事ゼグラ博士の書翰詳細に此の事を語れり。然れどもこは寧ろ我等に一層の努力を要求し給う神の激励と見るべく、ジャワイト氏の言に「困難を握ることは更に力を増す事なり我等の成長は努力の道による、風のまにまに打まかせては決して力に達する事能はざるなり」とある如く此の際家宰者主義を實行する多くの信徒を出し減額を補ふて余りあるに至らん事を切望する處なり。

終りに臨んで深く感謝する處は我教會の信徒諸氏の中に神国建設發達のために深き信念、聖別、熱誠の現はれつつある事なり。即ち主イエスキリストの活ける生命が漸次顕われつつある事なり。此の生命豊かにして初めて神国拡張の實を見るべく此處に至らしめたる指導者牧師及兄弟姉妹達に心よりの感謝を呈し其喜を頌つものなり。（承認）

○報告

幹事報告（安田幹事）

- ・昨年は前古未曾有の災害に遭遇し日本橋、本所、小田原等の教會を失い言ふべからざる悲境に陥りしにもかかわらず予想外の好成績をあぐるを得たるは感謝に余りあるところである。

	大正 12 年度	大正 11 年度	増
受洗者	388 名	161 名	227 名
1ヶ年集金高	16700.705 円	12275.78 円	4424.925 円
朝拝出席者	374 名	331 名	43 名

以上受洗者数の急激なる増加は金森氏傳道の結果たるは言う迄もないが一般に傳道的精神旺盛なりしを示すものである。我等は此復興の時代に於て更に良よく社會民心の要求に應じて主の御用にいそしみ度いものである。（承認）
震災救護委員報告（横田格之助君）

- ・昨年 9 月の大震災に際し中部及関西に於ける同胞教會員諸氏が深甚の同情をよせられ多額の金銭及物品を寄贈せられたる事を感謝す。救護委員は日本橋、本所、兩教會及其他の罹災者を訪問し家族ある者には金 25 円を独身者には金 15 円を贈与したり。

大久保教會、渋谷教會、原宿教會等に於ては各方面より寄付せられたる被服の配給遭難者収容、物品の配給等に努め、本所教會に於ては其焼け跡に天幕を張り無料職業紹介及物品の配給をなし、市川及船橋は遭難者の収容をなし、沼津教會は慰問袋を作りて小田原方面に配給したり。尚ほ金銭の出納は會計報告により承知せられたし。（承認）

第 2 日（3 月 23 日 日曜日）

- ・聯合礼拝式
- ・日曜学校教師會（矢部喜好君 司會）

右懇談の主眼は教師教室設備等にして教師養成に全力を盡す事及幼稚園の生徒全部を日曜学校に出席せしむる事等は最も力説主張せられたる處なり。

讚美歌 277 番うたひ更に今回スコットランドグラスゴーに開かるる第 9 回世界日曜学校大會に日本日曜学校協會より代議員として出席せらるる矢部喜好君を送る為讚美歌 392 番をうたい井上君の祈禱をもって閉會す。

第3日 (3月24日)

・祈禱會

井上藤蔵氏は我等は小なる者を軽んずることなくイエスの力に信頼し神国拡張の事業にあたるべしと説かれた。

・議事

- ・米国同胞教會及外国傳道會社に感謝の意を表す事。(安田忠吉君提出)

米国同胞教會及外国傳道會社が經濟界の打撃よりおこる多くの困難を排し終始一貫せる愛を以て我が同胞教會に寄せられたる同情に對して感謝の意を表す事。(可決)

懇談會

(3) 夏期交換牧會の件

- ・本多君説明せらる。各教會が夏期中適宜牧師の交換牧會を為す事は、教會の訓練、牧師の健康經驗等の点より考えて得る處多大なりと云う。

第4日目

・懇談會

(4) 田舎傳道に對する根本方針につきて

青木久君は田舎傳道の経過を論じ将来の方針を確立せられんことを希望せられ数氏の意見を聞き之を年會の議案とすることに一致す。

- ・議事 ○田舎傳道に関する根本方針

- ・田舎傳道の関する根本方針につきて委員5名をあげ第25回年會迄に研究せしむる事。(可決)

○牧師任命 20教會 16名(兼牧含む)

閉會式

讚美歌 153番をうたひ聖書()を朗読し数名の祈禱の後シャイブリー氏の祝禱を以て第24回年會恩寵裡に閉會す時に午後1時25分

○大正13年収支予算

収入予算 39,694円 (内 傳道會社補助 31,500円)

支出予算 39,694円 (内 俸給 16,844円)

むすびとして

3カ年に亙る年会記録の要点と思われる事項を指摘した。

初めにも記したように、先ず各年度の総理、幹事の総括的報告にあるように教団の伝道に対する熱烈な思いが伝わってくる。日本基督同胞教会年會が開催されて10年を経た時点の時代背景を考慮に入れても、当時の教職、信徒の「福音を伝える熱心なる使命」を私共は深く学ばねばならぬことである。金森通倫師による伝道運動の展開に対しても、歴史的に考察し記録に留めなければならないと考える。またフィリピン伝道、マニラ伝道への資金援助等海外伝道に対する配慮にも目が向けられている。第24回年會記録にある「田舎伝道に対する根本方針」が研究課題として取り上げられているが、「同胞教会としての開拓伝道的方針」の一つとみてよいのであろうか。様々な形で伝道に対する試行錯誤が試みられている一方で日曜学校、幼稚園運営等に力を注ぎ伝道対象を拡大するとともに、社会事業としての夜学校、キリスト教精神を基本とする青年層への働きかけ、商工業者を対象とした精神的向上を目指した慰安会、講演会等積極的働きかけも見取れる。

自給自足教会として、海外伝道会社よりの自立を目指し、関東大震災の被災にも拘らず祈りと創造の神への信頼による、教団形成への力強い歴史の歩みの一端を感じるものである。

この後、さまざまな推移を経て形成される「日本基督同胞教会」の総合的歴史研究の成果が期待されること、切なるものがある。